

第5回板橋区ボランティア活動推進協議会専門部会 要点記録

| | |
|---------------|--|
| 会議名 | 第5回板橋区ボランティア活動推進協議会専門部会 |
| 開催日時 | 令和5年6月9日（金）午前10時から午前11時45分まで |
| 開催場所 | 板橋区立グリーンホール 703 会議室 |
| 出席者 | <p>[委員]8人(敬称略) 長澤重隆（部会長）、松村良子、田口晋、沼和子、小池睦美、矢野由加、平野江里子、前田康夫、林栄喜</p> <p>[オブザーバー] いたばし総合ボランティアセンター所長・副所長</p> <p>[事務局] 地域振興課長、地域振興課地域振興係職員</p> |
| 会議の公開 (傍聴) | 非公開、ただし要点記録は作成 |
| 傍聴者数 | なし |
| 議題 | <p>1 開会</p> <p>2 議題 （1）第5回専門部会の振り返り （2）今回の検討事項について （3）ビジョン素案の作成について</p> <p>3 閉会</p> |
| 配付資料 | <p>資料⑤-1 第5回板橋区ボランティア活動推進協議会専門部会 要点記録（案）</p> <p>資料⑤-2 第5回ボランティア活動推進協議会専門部会 検討事項</p> <p>資料⑤-3 （仮称）いたばし総合ボランティアセンター運営ビジョン2030（素案）</p> |
| 部会長 | <p>1 開会</p> <p>定刻になりましたので、早速、始めさせていただきます。前回の協議会で、新しく部会の検討する事項の下命を受けました。それに基づいてですけれども、最初に事務局からその点も含めて、ご説明よろしく願いいたします。</p> |
| 事務局 | <p>皆さんおはようございます。本日もどうぞよろしく願いいたします。今日の会議も毎回と同じですけれども、会議録作成のために録音させていただきますのでご了承ください。委員9名中、今現在8名の委員が参加されております。本専門部会を正式に成立をしてございます。それでは議事の進行を部会長よろしく願いいたします。</p> |
| 部会長 | <p>それでは事務局の方から資料説明のほうよろしく願いいたします。</p> |
| 事務局 | <p>資料⑤-1、前回開かれました協議会の要点記録。 資料⑤-2、専門部会の検討事項でございます。 資料⑤-3、こちらが（仮称）いたばし総合ボランティアセンター運営ビジョン2030素案のさらに案ということになります。 その他、ここに載ってございませんが、資料の⑤-3を議論するときに使う付属資料としまして、論点整理表A3の横で作っておりますものを皆様に配布させていただいて</p> |

| | |
|-------|--|
| | <p>おります。以上資料の不足等ございませんでしょうか。それでは議事運営の方、部長よりよろしくお願いいたします。</p> |
| 部 会 長 | <p>2 議題 (1) 第5回協議会の振り返り (2) 今回の検討事項について 第6回協議会までの間に、もう1回専門部会を開いてきますので、2回に渡って連続して検討を進めていきたいので、その点も含み置きいただきたいなと思っております。それではまず、2番目の議題の、今回の検討事項の中身について入っていきたいと思います。これに関して改めて説明をよろしくお願いいたします。</p> |
| 事 務 局 | <p>(事務局から資料⑤-1及び⑤-2について説明)</p> |
| 部 会 長 | <p>(3) ビジョン素案の作成について 素案の形で皆さんにご提示しているのは初めてということなので、1章から3章ありまして、最後の参考ページを除いても実質、10数ページにわたる内容になっており、これを協議会に提案していく案として策定をしていきたいんですけども。第1章はその使命。このビジョンの作成にあたっての背景とか目的とか、これから持っていくビジョンの期間のこと、それを受けているその背景の変化や動向等の説明が書かれています。第1章の中身の策定の背景と目的っていうところで、特にそのSDGs、区でも強く推進しているんですけどもSDGsの考え方・思想を受け入れながら、このビジョンの中にも含まれながら、ボランティアセンターの性格を位置付けているというところの文章になっております。そういうところで最終的には再構築する必要性が生じているため、本ビジョンを策定いたしましたというところで括っている案でございます。そして次の4ページでは、私たちが作っているこのビジョンの期間は、基本的には2030年に向けての期間であるということと、改めてまた変化や動向を含めた内容になっています。5ページ目の4番、これまでの成果と課題というところでは、現状の今行われている成果も含めて、これからの課題、災害ボランティアのこともちょっと触れておりますけども。そういうものも含めて、新しいボランティアセンターのあり方がこれから作られていくという、これから目指すということでもあります。災害ボランティアのことは、ちょっと触れておりますけども、今回のビジョンの中にはこれを特定して、特に協議しておりませんので、これは別個に考えたいと思います。ここまでの間でちょっと皆さん、何でも良いので、途中で気が付いたこと、ご意見を出していただければと思います。</p> |
| 委 員 | <p>【質問】 このビジョンは、まず区議会で承認を得てそれから区民に知らされるものだという位置付けでいいのか。</p> |
| 事 務 局 | <p>【回答】 このビジョンですが表紙を見ていただくと、下にボランティア活動推進協議会と書かせていただきました。要はこの推進協議会の中で決めるという位置付けにしたいと思っております。ですので、議会にも報告はさせていただきますが、議会の承認がなくても、これは成立をします。そういう位置づけです。</p> |
| 委 員 | <p>【質問】 最終的には、これは誰が見るものなのか。</p> |
| 事 務 局 | <p>【回答】 区民が見るものです。実際にはボランティアセンターの運営していただく皆さん</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>は、この新しく出来上がったビジョンをもとに、いろいろな施策を考えていっていただくということになります。</p> |
| 委員 | <p>【質問】 どうやって区民がそれを見るというシチュエーションを想定しているのか。</p> |
| 事務局 | <p>【回答】 ボラセンの周知と相まって、このビジョンを作りましたという周知も必要と考えます。我々が持っている周知する媒体、すべて用いてこのビジョンを周知していきます。</p> |
| 委員 | <p>【質問】 区民が見るということを想定したときに、ビジョンを読み込もうという気になれない。一步踏み込めるような工夫が必要ではないかと思う。</p> |
| 事務局 | <p>【回答】 今は本編のみご提示をさせていただいておりますが、概要版を作る予定になっております。なるべく、区民の皆さんが見てわかりやすいものを作っていこうと思っております。文字ベースだけですと読む気にならない、その通りでございます。ですので、手に取って読んでいただくようなものにするように、これから内容が固まってきたら、その作業に今度は取りかかっていくというふうにご理解いただければと思います。</p> |
| 委員 | <p>【委員意見抜粋】 やはり大人だけでなく、中高生が読んでも見てもわかりやすいものを概要版に関しても作っていく必要がある。</p> |
| 部長 | <p>このビジョンもそういう板橋区の基本計画の中に、ある程度一定の枠で認識されているものとして、受けとめてよろしいのでしょうか。</p> |
| 事務局 | <p>こちらはですね基本計画っていうと厳密にいうと、協議会で作ったものはそういう意味合いでいうと、若干ずれるところは概念的にはあるんですが、ただ、区の基本計画と寄り添うような形であります。</p> |
| 委員 | <p>【意見】 ビジョンの期間については、一応SDG sの目標値とされる2030年、令和12年度という目標年の7年間でとのことなので、そこら辺の記述は説明を入れる必要があるのかなというふうに思う。</p> |
| | <p>【質問】 民間企業だとSDG sの中でも、どんな目標を採択するか選んでコミットするが、自治体だと全部の目標に対してなのか、ベースになるところがどこまでの範囲なのか知りたい。</p> |
| | <p>【意見】 全体として受け入れるというもちろんベース。ベーシックな基本的な人権とか人間的なそういうものを含めてそれは必要だと思う。</p> |
| 事務局 | <p>ここで議論するのはあくまでもビジョンということで、具体的な基本計画・実施計画に当たるものは、この後に作っていくと。その中で明らかにしていく、そのような作業がこれから入るのかなと思っています。</p> |

| | |
|-----|---|
| 委員 | <p>【質問】 周知する際に、外国語対応のこともお考えになっているのか。</p> |
| 事務局 | <p>【回答】 今現在、出来上がったものを、冊子として、例えば英語版とか中国語、韓国語版で印刷して配布するというような予定はございません。まずもって予算をとっていないからです。絶対やらないということではありません。この周知のときに当然のことながら、区のホームページも使わせていただきます。今系統的にどのようなシステムがホームページ入っているかといいますと、アメリカの方が、スマートフォンを英語バージョンして、区のホームページを見ると、この中身も英語バージョンになって表示される。ベトナム人の方だったらベトナム語ってやってスマートフォン見ていると、自然に変換される仕組み、このようなものが導入されておりますので、一定そこです、カバーできるのかなと思います。つまりいろんな国の方が自国で自国の言葉で、この中身を知ることができる。そのような状況が整っています。</p> |
| 委員 | <p>【委員意見抜粋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラットフォームを作るにあたって、もう少し具体的にこのシステム化を、社会背景を踏まえ構築していく必要があるという流れをもう少し載せたほうがいいと思う。 ・単にコロナ禍でIT化が進んだっていう理由ではないと思う。DX戦略を板橋区で出しているの、もう少し明確になんか記載してもいいのではないかな。 ・コロナ禍を明文化する時に、コロナ禍で、オンラインでもいろんなことができることが証明されたという、その実績ができたということを根拠に書いていたりもしている。 |
| 部会長 | <p>様々な繋がりの中でも、多様な機能を使うことが必要になって、プラットフォームとして当然活用するっていうことはうたっているが、もう少し検討していけば、全体としてはとらえられるかなと思います。事務局のほうでももう少し文章を付け加えたり、加味していただければと思います。今、主に1章のところを中心に皆さんのご意見をいただきましたが、2章のビジョン。実現したい未来像ということで、ちょっとまた振り返りたいと思うんですけど、3章のところもちょっと先取りしながら、この構成に関しては皆さん何かご意見とかご感想ございますでしょうか。</p> |
| 委員 | <p>【委員意見抜粋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラスαやアンドモアが何か聞かれたときに、どういうふうに答えていくのか。私たちがそれは答えられなきゃいけないのではないかなと思う。 ・インキュベーション機能で創出していく、それは課題だとかテーマとかで、そこに課題を持っている新しい人が入ってくるという意味でのプラスαで、何か仕組みだとかシステムが生み出されるのがアンドモアという認識。 ・繋がった何かと、何か新しいものが生まれることが、このアンドモアにあるというのが、専門部会で何か共通で一つ一つの事例として認識があれば、やってきたという意味合いというのはちゃんと形に残ることになるのかなっていうふうに思う。 ・プラスαとかアンドモアの例が、表に書いてあるとわかりやすい ・手法とか導入・運用効果の例を、それはプラスαの部分なのか、アンドモアの部分なのかっていうのをちょっと分けて表記されれば、よりわかりやすい。 ・プラットフォームの実例をトピックスやコラムで表現してもいいかもしれない。 ・情報発信・提供でホームページに事例を記載してそのページのURLを1個入れておくとか。 ・今本当にいろんな法人が様々なSDGsもあり、いろんな意味合いで社会貢献を参画している。全国規模でもすごいので維持しながら、連携していくことがより大切。 |

| | |
|--------|--|
| 部 会 長 | <p>・運用効果の課題を言葉ではなく、具体的な個別の名前があって、個別の案件があって初めてイメージが湧くのかもしれない。</p> <p>区が主体となって、やっている事業、意外と見過ごされて思うんですよね。ボラセンがそこで関わっているかどうか。何かそういうボラセンが関わっているものはどうなんでしょうか</p> |
| ボラセン所長 | <p>昨年度は行政だけではないんですが、140回会議に参加しています。それぐらいプラットフォームの基礎となる会議は大事にしています。</p> |
| 委 員 | <p>【委員意見抜粋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中高生の関わりいうところで、中高生に配れるものを作っていただいて、SDGsに関わるような感じで、例えばホームページに繋ぐと、地域で具体的にできるボランティアがあるとか、実際にボランティアに参加している中高生紹介があるとか、地域の顔が見えて、取り組みの形がつけられているもので、授業で短時間でも触れられるきっかけになるものがあればいいと思う。 ・ゲストティーチャーとして学校が呼んでくれる、ボラセンがプラットフォームとしてコーディネートするみたいなことができると広がっていくと良い。 ・システムを作って、やれるところを紹介するというのはあったほうがいい。多くの学校が、そんなに時間もかからないけど、子どもたちに紹介できる・関われる、主体的な取り組みの意識を持たせられるようなものが、負担をかけないでできるようにしたい。 ・高島平地区ではボランティアワークショップという、ボラセンとは違う独自の活動があって、民生児童委員、青健とジュニアリーダー、児童館、障がい者福祉センター入って、高島平地区の中学校四つ。4月にメンバーの人がボランティアの説明会を毎年入れさせてもらっている。興味ある人はプログラムを体験してもらう。そんな流れが長年出来上がっていて、またその中から卒業者が、地域の児童館で働いたりとかして、OBとして働いて中学生の育成に関わってくれたり、民生児童委員や青健の方たちが一緒に見守りながらやっている。 ・民生委員とか青健の方とかそんな総合的な方々が実際に顔の見える形で関わってくると多分子供も、教員、大人も安心して、参加できるし任せられるっていう、そういう関係ができていると、それが一番いい。 |
| ボラセン所長 | <p>今日持ってきました情報紙に、いたばし夏ボラのボランティア体験が載っているんですが、A4両面刷りのチラシを小学生に全校配布をしていたんですが、今年中学生にも配付することにしました。OKをもらったところには、区内の高校や大学にも、チラシを必要部数お配りしたりしています。</p> <p>ボラセン職員じゃなくて、プラットフォームに関わってもらえる、そういった市民活動団体やNPO団体さんに事業を行っていただくっていうのは、プラットフォームで今後ボラセンがそういったことができる団体さんの情報を募って、行うというの方法について、切手整理ボランティアというこれもSDGsに直結してくる活動の一つではあると思うんです。子どもたちにとっては、ボランティアだったりSDGsを考えたりする、きっかけになりやすい活動だと思います。これも、かなりの小学校に体験に行っているんですけども。ボランティアセンター職員が行くのは、もう人数的に厳しいということで。現在、区内のボランティアグループに声をかけてボランティアを教えに行ける体験できるボランティアグループの育成をしています。この間も常盤台小学校のちょっとシニアの方が中心となったボランティアグループさんに、切手整理の説明だったり、子供たちに教える方法を職員と一緒にやって今後、学校から依頼があったときには、そのボランティアグループが単独で行けるようそういった情報をプラットフォームとして、その先生たちに伝えるっていうことも非常に大事だと思います。</p> |

| | |
|-----------------------|--|
| <p>部 会 長</p> | <p>います。</p> <p>はい。ありがとうございます。そろそろもう1回一言ずつ何かご感想ご意見あれば。まだ発言していない副所長はいかがですか。</p> |
| <p>ボラセン 副 所 長</p> | <p>2点ありまして、まず成果と課題。ちょっと具体的な課題の明記があまりされてないなど、なので、現状の課題はこうある、だからこうしたいんだと書かれていると読み手にとっては流れがすごくわかりやすいのかなと思います。それから、図2のプラットフォームイメージの下にあるプラットフォームの枠の中に注釈4の文言をプラットフォームの言葉の下に入れれば、これが何をしようとしているのかが、すごくぱっと見やすくなるのかなという風に思いました。色々の人たちが繋がっていく仕組みができていけば、プラットフォームの具体的に実現していくんじゃないかと思います。これからは、ぜひそこを実現できるような仕組みをしていきたいと思います。</p> |
| <p>部 会 長</p> | <p>時間も少なくなってきましたので、最後に一言ずつご意見があれば。</p> |
| <p>委 員 員</p> | <p>【委員意見抜粋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営方針のところで、各主体で、区民・地域団体と協働して運営していきます。ということを行っているが、これは例示であると書かれている。この区民、地域団体・法人・板橋区での各主体とはまた別に協働することになる。各主体の使い方・期待する役割は重点事業と関わりがあるのか考えた方が良いのでは。 ・ボラセンの支援体制を構築していくことに対して、各主体として協働していく人たちが、どう運営にも関わってきたかが重要だと思う。 ・プラットフォームの中に町会・自治会が入ることによって、地域の集会所も使えるということで、場所が一つこの情報共有の一つとして使えるのかと感じた。 ・精神障がいをお持ちの方が、社会復帰の手前でボランティアというステップを経るということだったり、国の施策として精神病院に長くいるのではなく、地域で生活するという動きが出てきている中で、地域移行に伴って、地域での役割と、初めの一歩というところでのボランティアであったり、あとはひきこもりの方の初めの一歩というものだったり、そういったものがSDGsの誰一人取り残さないというところに、入ってくるものになるのでは。 ・ボランティア利用する側としても、情報を得られるっていうのがすごくいいなって思った。 ・障がい者の就労時、頼れる大人がいるというのを若いうちから知っておくというのが本人たちにすごく良いので、そういう機会にも繋がっていくという意味で、実現できたらと思う。 ・地域の方としっかり連携をして子供たちが安心してボランティアに参加できる環境を作っていきたいと思う。 |
| <p>部 会 長</p> | <p>いろんな意見いただきまして本当にありがとうございます。ポイントをもう少ししっかりしようとか、絵面をよくしようとか、何かそういう関係性を、文章の関係性をもう少し、きめ細かく様々な視点で、まず素案からさらに進展できることが少し見えてきましたので、次回また続けてやっていきたいなと思います。今日初めてお渡しした資料ですけどもう一度次回までちょっと練って読んでいただいて、読み込んでいただいて、またご指摘いただければなと思っています。本日は、ここで一旦次回に回します。何かあれば、事務局からお願いします。</p> |
| <p>事 務 局</p> | <p>いろいろ事務局としては宿題をいただいたというふうに認識しております。確認をしておきたいのが、対象者の方は区民で、しかも大人の方、大人の方へなんです</p> |

| | |
|--------------|---|
| <p>部 会 長</p> | <p>が、よりわかりやすいものにしていく。こういうふうを受けとめましたけれども、それでよろしいでしょうか。イメージしているもののは、学生時代使っていた学習のテキスト教材。かなり高度なテクニックが必要なんですけど、冊子って見開きで構成する。もともとA4なんですが開けばA3になる、開いたときにそこで全体がわかるということ意識しながら、次回構成できるかチャレンジをしていく。当然のことながら図や表やイラストこういったものをふんだんに使わないとうまく集約していけない。そういうこともありますので、そういったことを、想定しながらやらせていただきたいなと思っております。集約をした内容を精査した上でまた皆様ご展開をする。ということになります。先ほど部会長からもお話があったように、事前に資料はメール等で送らせていただいておりますが、実質的に読み込んでいるのは、今日初めてということもございますので、ご意見をですね。来週の6月16日の金曜まで、受け付けたいなと思っております。1週間ありますので、何かお気づきの点があったらぜひ事務局までお寄せいただきたいと思いますと思っております。メールで結構でございます。その後の取り扱い、取りまとめにつきましては、部会長と部会長代理この2人に一任をさせていただきたいと思っております。その上で、お二人の承認が得られましたら、皆様にさらにご展開をして次回の7月6日の専門部会を迎えたいというふうに思っております。スケジュールに関しては、次回が7月6日、協議会が8月8日というのはもうすでにスケジュールを落とし込んでいただいていると思っております。その他に、素案が終わったら今度は最終案に入っていくわけですが最終案の専門部会は11月7日。たったの1回でございます。そこで揉んでいただいたものは、協議会が12月19日、こちらでほぼほぼ決定をしていくというスケジュールになっておりますので、よろしく申し上げます。事務局からは以上でございます。</p> <p>では来月、今ご案内いただいた7月6日ということで、今度は災害対策室になります。ぜひよろしく願いいたします。どうも本日はありがとうございました。</p> |
| <p>所 管 課</p> | <p>区民文化部地域振興課 地域振興係 (電話 3579—2163)</p> |